「コウナイの石」・3
～家島各島の名称考～

東光部　土井眼科　土　井　治　道

おことわり：「コウナイの石」は人により感じ方が異なります。人の顔のようにも見える方（約１割：説明後４割）もいます。一方、全く、その様には見えない方（約５割）もいます。前者の方だけ、お読み下さい。

夏のある日の午後、私は姫路城の北側にある姫山公園のフジ棚の下のベンチにいた。ここは、天守閣の日陰になり、内堀の水の傍でもあり、夏でも結構涼しく私のお気に入りの場所である。蝉が鳴き鳩がいる。鯉やアメンボがいて白鳥やアヒルもいる。時節によってはカイツブリやリスがあそび、お隣の動物園からはクジャクが空を飛んで遊びに来たりもする。街の中にあって、こんなメルヘンの世界が他に有るだろうか。しばらく蝉しぐれを聞いていると、なんだか辺りが暗くなったように思えた。時計を見ると「３:45」だった。

図１　「コウナイの石」
（撮影：上野忠彦氏）

メルヘンと云えば、かの「コウナイの石」である。石の写真を見て「気味が悪い」という者もいる。しかし私は、この石はメルヘンの世界だと考える。そう思う。風土記の石神こそが、この「コウナイの石」だろう。否、「コウナイの石」を播磨国風土記は伝えているに違いない。もし、そうだとしたら何をどう考えるベキなのだろうか。先ず、島の名前について考えてみる。

家島町は、大小27の島々からなり、真浦・宮地区のある家島、坊勢地区の坊勢島、男鹿島、西島の四島以外は無人島である。人口約9000人。その名は「人々家を作りて居り・・」（風土記）や、神武天皇東征時？の「まるで家に居るように穏やかだ」という故事に縁るとされる。

・「家島は　名にこそありけれ　海原を　あが恋来つる　妹もあらなくに」（万葉；遣新羅使、天平８年）

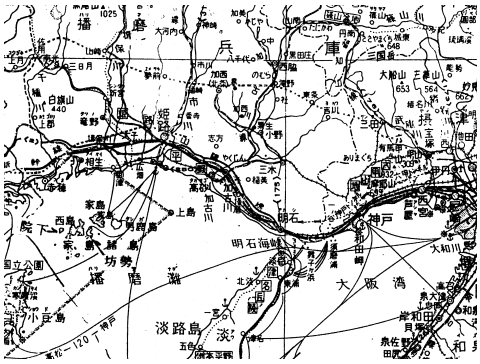

図２　家島町付近の地図

神嶋［風土記］（実在なし）

神嶋（石神の居る島）は、風土記の「神嶋は伊刀嶋の東」と「伊刀嶋は諸島の総名」の記述によって家島諸島の最東端の上島とされている。しかし「コウナイの石」を風土記の石神とするならば、石神の居る「西島が神嶋

である」と云える、と思う。

伊刀嶋［風土記］（実在なし）

「伊刀嶋諸島之總名」である。しかし「神嶋伊刀嶋東」という記述から、伊刀嶋は神嶋（西島）の更に西の「院下島」ではなかろうか。西島以西には、小豆島まで院下島しか無いのだから。そして当時、諸島を代表する官庁？の建物（院）が有ったのでは、と考えるのは無理であろうか？この「院下島」に！風土記の頃の交通は海上交通、そして文化は西から、であるのだから。

上島（実在）

高砂市沖約10ｋｍの群島最東端の小さな無人島。風土記では神嶋は伊刀嶋（諸島全体）の東に位置する為、「上島は神嶋」とされている。ところが自仮説では、上島の往古の名称が無くなって（　　）になってしまうのである。上島は「かみじま」と呼称するが、昭和の中頃でも周辺の各地に於て、「あわしま」を含めて何と24通りもの呼び名が有ったという記録がある。播磨灘の真中に有りよく目立つ。そして、明石（林崎海岸）からも見えるトテモ小さく可愛い島なのである。「大和びと好み」？にもかかわらず、万葉集はじめ古歌に『上島』を詠んだ歌は一首も無いのである（♣）。風土記の時代から「かみしま」なら、実に不思議なことと思いませんか。（「上島」＝万葉の「可古の島」という説はあります）

《ここまでが「コウナイの石」からのメッセージでしょう。》

上島（姫路市、白浜からの遠望）

あわ島（未詳）・考

［古事記－淡島、日本書紀－淡洲、万葉集－粟島］

播磨国風土記には「粟島」の記載はないが、万葉集には６首ある。うち２首は周防（山口県）の屋代島のものとされる。４首は淡路島周辺のものらしい。しかし、古来「粟島」が何処かは未詳である。淡路島付近の粟島の歌とされている万葉歌を３首ばかり記す。

・筑紫に下る歌として、

「・・鄙の国辺に直　向かう　淡路を過ぎて　粟島を　そがいに見つつ・・」（509）

この歌から粟島は淡路島（明石海峡大橋）の西側にあったと推定される。

・「武庫の浦を漕ぎ廻る小舟　粟島をそがいに見つつ　ともしき小舟」（358）

武庫の浦は兵庫医大周辺。「そがい」は背景のことであるから、粟島は紀淡海峡の友ヶ島であるとする説もある。（自仮説として、神戸沖から北東の武庫の浦、そして西の明石海峡の向こうの上島を背景に詠んだ、と思いたい）

・「粟島に　漕ぎ渡らむと　思へども　明石の門波　いまだ騒けり」（1207）

古来、粟島は、淡路島の東周辺の島とか、明石や武庫の浦あたりから見える島とか、淡路島の北西にあった島とか、いろいろ云われて来たが、山川振作の説（♥）では、明石市の林崎の沖の今では水没した岩礁であろうとされているのである。

今ここに、古事記の仁徳記歌謡も掲げておく。これは、仁徳天皇が難波を出て、フィアンセ？の黒日売の居る吉備国に向かう途中、淡路島に坐して詠んだとされる歌である。

・「おしてるや　難波の崎よ　出で立ちて　我が国見れば　淡島　オノゴロ島あじまさの島も　見ゆ　放つ島見ゆ」とうたいたまひき。すなわち、その島より伝ひて吉備国に幸行でましき。（古事記；仁徳記）

この歌より、淡島もオノゴロ島も、淡路島ではないことは自明の事であり、意識は吉備国に向いていると思われる。「伝ひて」は、何をであろうか？これらの歌から、やはり淡島（粟島）は、上島であろうと私は思う。やっぱり！

大声を上げたのだろうか。「やっぱり！」と叫んだのだろうか。その時、周囲の人がジロリと私を見たような気もした。我に返り、あたりを見ると、午後の陽射しは少し和らぎ、お堀の水面を吹き渡る風にもアキアカネがもう爽やかな秋の気配を運んで来ていた。
―そして、デジタルは「３:46」に変わった。

…つづく

参考文献：♣「播磨古歌考」橋本政次（姫路文学館発行）
♥「記紀『国生み』神話の考察」山川振作（東大生物学助教授）〔比較文化研究５・1964年〕

（2000、夏、記）

報告：姫路文学館（館長；京都大学文学部名誉教授　上田正昭先生）に於て開催されました「風土記が語る古代播磨展」（2000、10、13～11、26）にて、「神嶋の西辺とは家島町西島で、そこの神像の目が新羅人に奪われた。」との表示がありました。従来の通説は「神嶋＝上島」です。

つれづれに

飾磨西部　伊東眼科医院　**伊　東　滋　雄**

アメリカで大統領選挙があった。ブッシュ、ゴアの大接戦で開票から２週間たってもまだ決着をみていないようだ。あの選挙戦をみているとアメリカ国民が選挙に参加し、自らが自国の最高権力者を選んでいるのだという意気込みが感じられる。数年前「エアフォースワン」というハリソンフォード主演の映画を見た。内容は、大統領専用機であるエアフォース　ワンがハイジャックされ、刑務所に収容されているテロリストの親玉の釈放を交換条件にホワイトハウスと交渉するというものだった。もちろん主役を演ずるハリソンフォードの大統領自身の活躍によりハイジャック犯がやっつけられる。そのラストシーンで大統領が軍の飛行機に無事救出される。この場面でアメリカ軍兵士たちが大統領に敬礼し、「ようこそ当機へ。」という場面。それから続いて軍本部への連絡に「ただいま当機は名前がエアフォース　ワンに変更されました。」と言って大統領の無事を知らせるせりふはまさにアメリカ大統領への忠誠心と敬愛の心がよく示されていたように思う。そのことと今回の日本の政治劇をみていると少し情けない気がした。

最近、伊能忠敬の本を読んでいる。伊能忠敬といえば、初めてまともな日本地図を作った人としか知らなかった。その幼少時はあまり恵まれた環境とはいえなかったようだ。地方の名主の次男に生まれたが、早く母に死別し、養育先があちこちと変わっている。次に養子として伊能家に入り、30年間ひたすら名主として働き続け、資産を30倍に増やした。それからいよいよ55歳から日本地図の測量にかかっている。測量して歩いた距離は約４万キロ17年かけている。使った道具は、自分の歩幅や縄などの原始的な道具で、それにもか